

ツール 16：フォースフィールド分析

このツールの目的

介入策にポジティブあるいはネガティブに影響を与えるさまざまなファクターの強度を評価する。

このツールを使うタイミング

介入のさまざまな段階で用いることができる。設計段階で用いることもできるが、評価段階で用いることも可能。

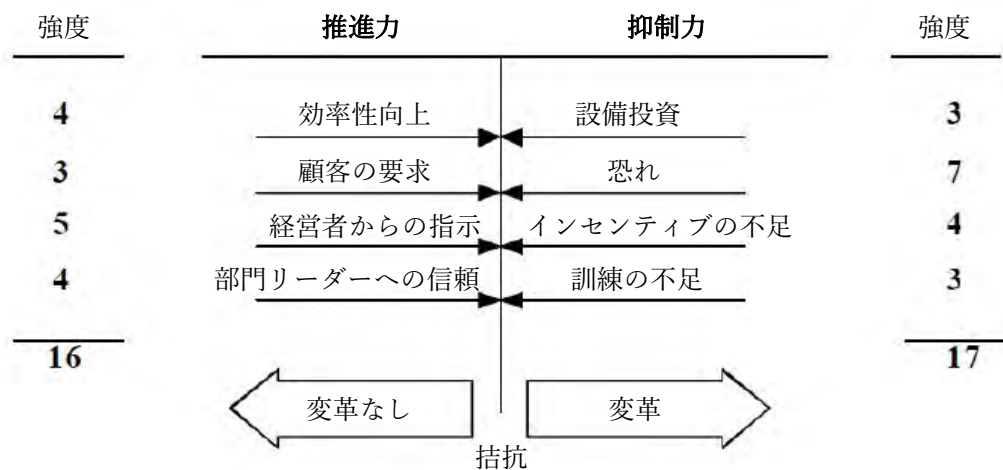
フォースフィールド分析とは

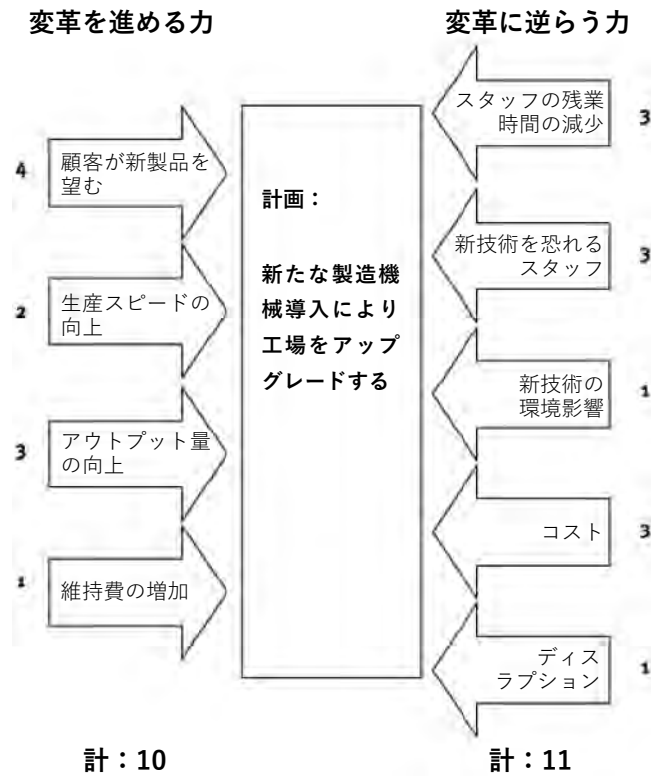
フォースフィールド分析は、マネジメントの方法を変えるのに大変有用なツールである。

クルト・レヴィン (Kurt Lewin) のフォースフィールド分析は、変革に影響を与えるすべての力 (フォース) の総合的なインパクトを評価するものだ。このような力は、「推進力」(driving forces) と「抑制力」(restraining forces) の2種類に分けることができる。推進力とは、変革を生み出し推進するすべての力を指す。このような変革の推進力は、変革のプロセスを促進し、それをさらなる高みに引き上げる。

推進力の例としては、経営者からの指示や顧客からの要求、効率性向上などが挙げられる。抑制力とは、変革をより困難にする力を指す。このような力は、推進力を打ち消すように働き、変革の回避や変革への抵抗を生み出す。抑制力の例としては、恐れ、訓練不足、インセンティブ不足などが挙げられる。この2種類の力が拮抗している場合、変革は静的な均衡状態にあり、変革に向けた動きも変革から遠ざかる動きも起こらない。

参考例





フォースフィールド分析 – ステップ・バイ・ステップ

フォースフィールド分析のやり方にはいくつかの異なる手法やバリエーションが存在するが、これらすべての共通点がある。(ビジネスで活用する場合の) 以下で紹介するステップは、これらの共通点の多くを含んでおり、一般的なフォースフィールド分析をうまく行うために必要なプロセスだと考えていただいて差し支えない。

1. 現状を把握し、理解する。
2. 目標となる望ましい状態を把握し、理解する。これは、望ましい（政策上の）ゴールや目標であってもよい。
3. 変革をサポートするように働く推進力を把握し、リストアップする。どれほど影響力が小さく見えても、すべての推進力をリストアップすることが重要。推進力とは、現状を目標となる状態に変える方向に働く力を言う。
4. 変革を妨げるように働く抑制力を把握し、リストアップする。抑制力とは、現状を目標となる状態に近づけないようにする力だということを忘れないようにする。
5. それぞれの力に、その影響力のレベルに応じ、スコアを付ける。例：1=極めて弱い、 7=極めて強い
6. 推進力を左側、抑制力を右側にリストアップし、これらの力の表を作成する。ステップ5で付けたスコアを、表中のそれぞれの力の横に書き加える。
7. 両サイドのスコアを足し上げることで、現在働いている、あるいは今後働く可能性のある推進力と抑制力を踏まえて、望ましい変革が起り得るかどうかの可能性を評価することが可能となる。
8. 抑制力の強度を減じる、あるいは推進力の強度を高めることで、変革にどのような影響を与え得るかについて議論する。
9. 抑制力を取り払い、推進力を利用するためのアクション戦略を議論する。

さらに知りたい方は：

クルト・レヴィン(Kurt Lewin)のフィールド理論については：https://en.wikipedia.org/wiki/Force-field_analysis

以下を一部参照した：Stephen Wells (2006). Force Field Analysis - Mini-Tutorial Quality Management. www.freequality.org/documents/knowledge/Mini-Tutorial.pdf

ODI Toolkit Knowledge for Development (2009). www.odi.org/publications/5218-force-fieldanalysis-decision-maker